

編集後記●

新ジャーナルの社会的役割

査読誌の持つ存在意義は、3つあるように思う。第1は、研究者のキャリアパスとしての存在意義である。第2は、開かれた公平な研究発表の場としての存在意義である。そして第3は、学術が発展するための土壌としての存在意義である。これらの3つの存在意義は、動機と意欲が公開の土俵に上がり、公の目に触れるという、3段階のプロセスと密接に関係し合う。そして、人類の総和的な幸福という、核心へと一直線に繋がるのである。この流れを否定する者が、いてはならない。

昨年の梅雨の頃、私は研究所所長に「機関誌を年1回、査読化してはどうか」と提案を行った。幸いにも私の提案を受け入れてもらうことができ、当初は、既存の『国際経営フォーラム』の流れの中で、この提案を具体化していくはずであった。その後、投稿論文の締め切りを過ぎたあたりに、素晴らしい投稿論文が到着しつつあることがわかると、新しい名前を持ったジャーナルとして創刊することが自然と決まったのであった。

このような経緯をへて、本創刊号が発行されるわけだが、この企画を立案した背景には、私のささやかなる願いと、小さな恩返し気持ちがある。私は、現在のアカデミックポストに就くにあたり、また学位を取得するにあたり、各種学会や大学の査読ジャーナルにお世話になった。今日、大学院生のキャリアパスとして、公正かつ公平な査読を

経て論文が掲載されることは、他の何よりも重視される。そのため、このような査読ジャーナルに掲載することを、目標として研究を行ってきたといっても言い過ぎではない。

当時、研究者を夢見る一介の大学院生が、研究者の端くれとして少しだけ成長できたのも、査読ジャーナルのおかげであったのである。そこで、今までお世話になった先生方への御礼を、質が高く学術の発展に寄与するためのジャーナル作成に参与することで、果たしていきたいと強く思っている。

これまで、本機関誌の発行に至る経緯を振り返りながら、本機関誌の目的とする到達地点をおぼろげながら示してきた。くわえて、記さなければならない重要なことは、投稿論文を査読していた先生方の存在である。本ジャーナルは、匿名査読者制を採用しているため、査読者の氏名を公表することはできない。しかし、査読に当たっていただいた先生方は、一流の先生方ばかりであることだけは明示しておきたい。そして、査読の先生方には、私のお願いを快く引き受けていただいたことも含め、心より御礼をするばかりである。

さて、創刊号が出た本日をもって、第2号の募集が始まる。本ジャーナルを大切に育てるため、次号も創意豊かで読み応えのある論文をお待ちしている。

編集委員長

小島 大徳

マネジメント・ジャーナル 創刊号

発行日 2009年3月31日
発行者 榊原貞雄
発行所 神奈川県平塚市土屋 2946
神奈川大学国際経営研究所
電話 0463 (59) 4111

印刷・製本 カサハラ印刷株式会社